

女性の社会参加に関する意識調査

報告書【概要版】

平成27年2月

奈良県

「女性の社会参加に関する意識調査」の概要

1 調査目的

就労をはじめとする女性の社会参加に関する意識や実態を把握し、女性がいきいきと活躍するための施策の検討を行う。

2 調査対象

県内に居住する満20歳以上の男女3000人(男女各1500人)

3 調査項目

男女共同参画社会の実現について、下記の項目を中心に、意識を調査した。

- (1) 女性の就労について
- (2) ワーク・ライフ・バランスについて
- (3) 男女共同参画社会について

4 調査方法

- ・郵送配布・郵送回収による無記名アンケート方式
- ・県内市町村から無作為抽出した地点において対象者を抽出

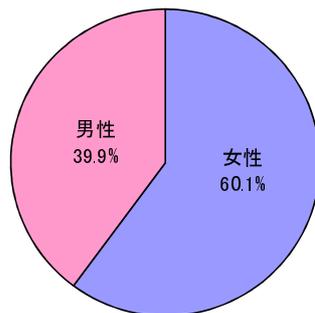
5 調査期間

平成26年5月29日～平成26年6月20日

6 回収結果

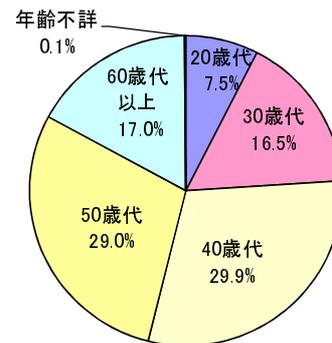
調査票配布数	有効回収数	有効回収率
3,000	1,410	47.0%

【性別】



性別	女性	男性
性別 (計1,410人)	848	562

【年齢】



年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	年齢不詳
年齢 (計1,410人)	106	232	422	409	239	2

<この概要版を読むにあたって>

- ・グラフ中の数値は、その質問項目に該当する回答者数(Nと表示)を100.0%として計算した比率です。
- ・複数回答の質問は、回答の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・百分比(%)は小数点第2位を四捨五入し、第1位までを表示しているため、合計が100.0%に一致しない場合があります。
- ・回答選択肢を簡略化して表記している場合があります。
- ・グラフでは0.0%の表記を行っておりません。

奈良県では、第2次男女共同参画計画（平成18年度～平成27年度）において、5つの基本目標を掲げ、男女共同参画社会の推進に取り組んでいます。

【 第2次奈良県男女共同参画計画の基本目標 】

- ① 職場や地域などあらゆる分野における意志決定の場への女性の参画
- ② 男女が意欲と能力に応じていきいきと働ける環境
- ③ 家庭と仕事・地域活動のバランスがとれ、男女がともに支え合うライフスタイルの実現
- ④ 女性に対する暴力の根絶など、男女の人権の尊重
- ⑤ 『男ならこうあるべき』『女ならこうすべき』といった固定的な性別役割分担意識の払しょくなど、男女共同参画社会実現に向けた意識の向上

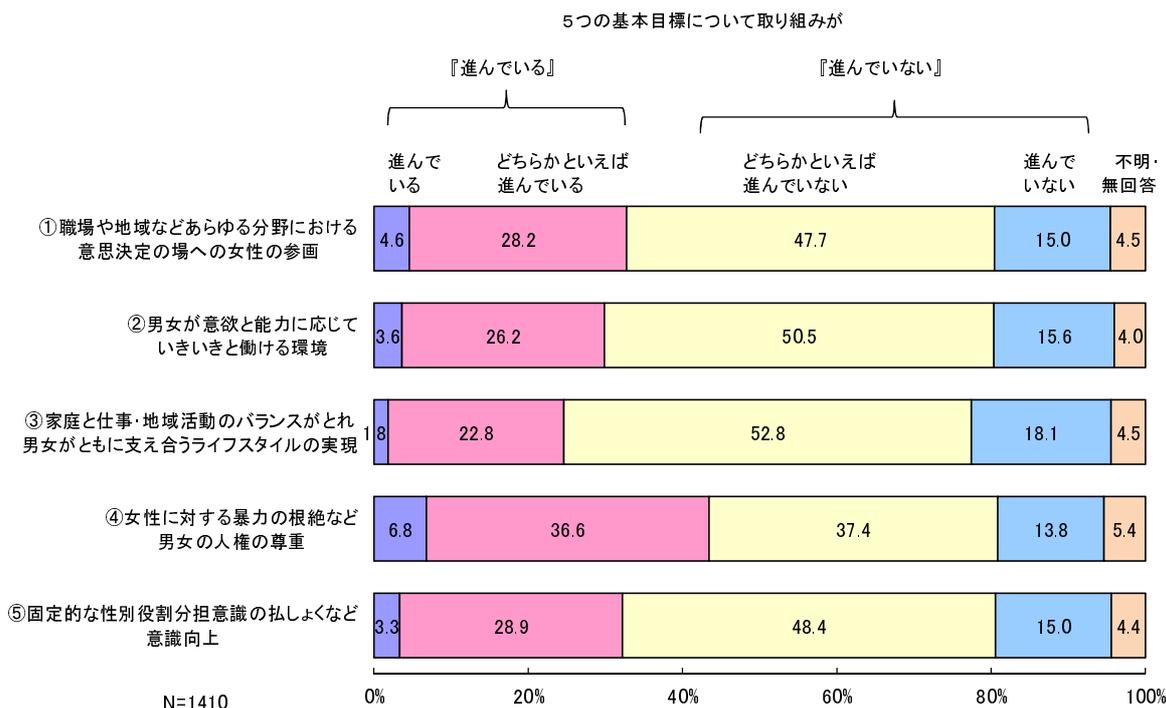
第2次奈良県男女共同参画計画の基本目標についての印象

自身の生活や周りの環境から判断し、各基本目標について取り組みが進んでいるか、印象を質問した。

◆ 取り組みが『進んでいる』との印象は弱い

④「女性に対する暴力の根絶など、男女の人権の尊重」は、『進んでいる』が43.4%だが、③「家庭と仕事・地域活動のバランスがとれ、男女がともに支え合うライフスタイルの実現」は、『進んでいる』が24.6%と約4分の1にとどまっている。

全ての基本目標について『進んでいない』との回答が過半数となり、取り組みが進んでいるとの印象は弱い。



I 女性の就労について

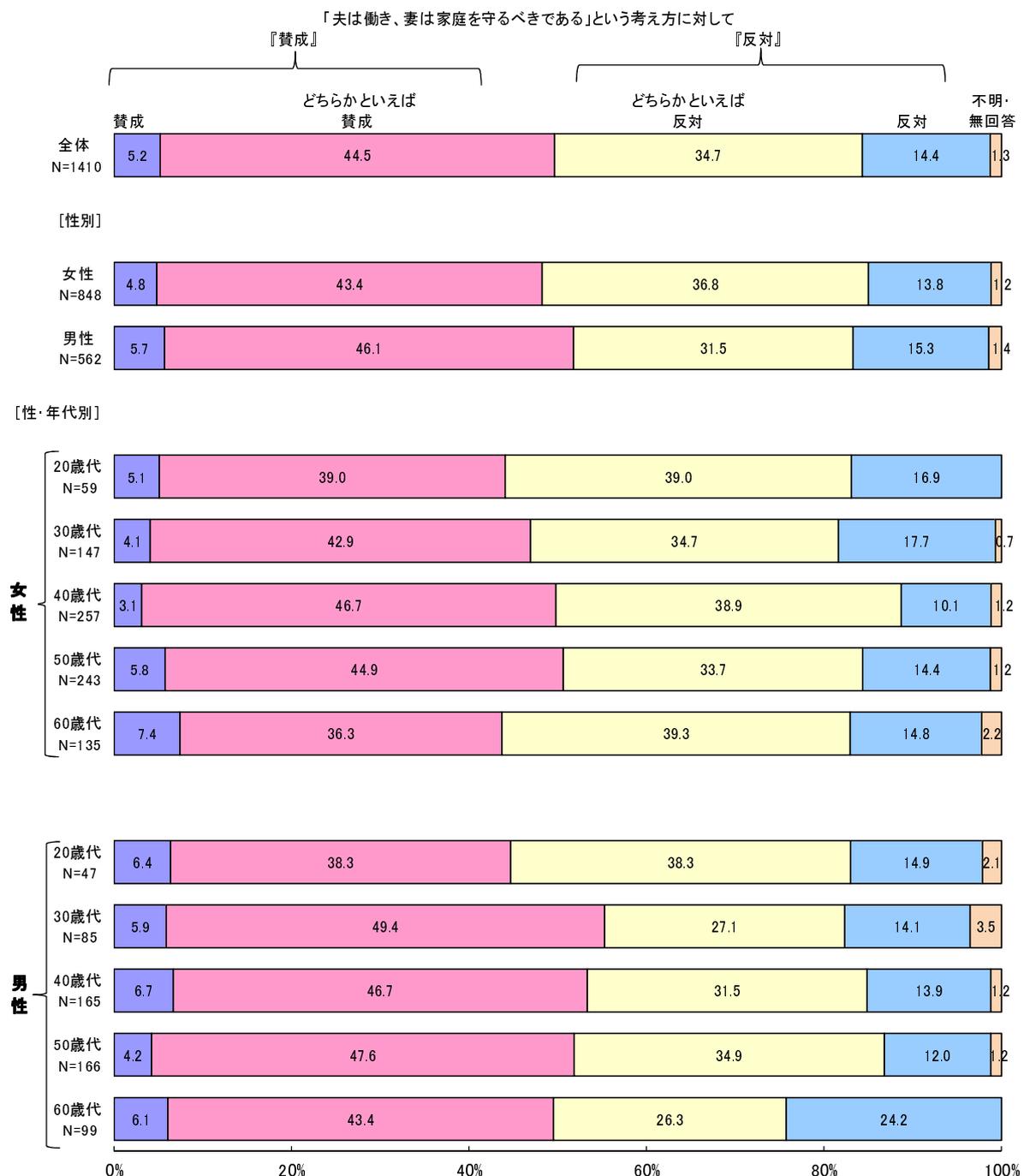
(1) 「夫は働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方への意見

「夫は働き、妻は家庭を守るべきである」という、固定的な性別役割分担意識について質問した。

◆全体では『賛成』『反対』がほぼ同数

性・年代別にみると、女性は、20～50歳代では年齢が上がるにつれ『賛成』が増えるが、60歳代では『反対』が多い。

一方、男性は、20歳代では『反対』が53.2%だが30歳代では41.2%に減る。以降60歳代まで年齢が上がるにつれ『反対』が増える。



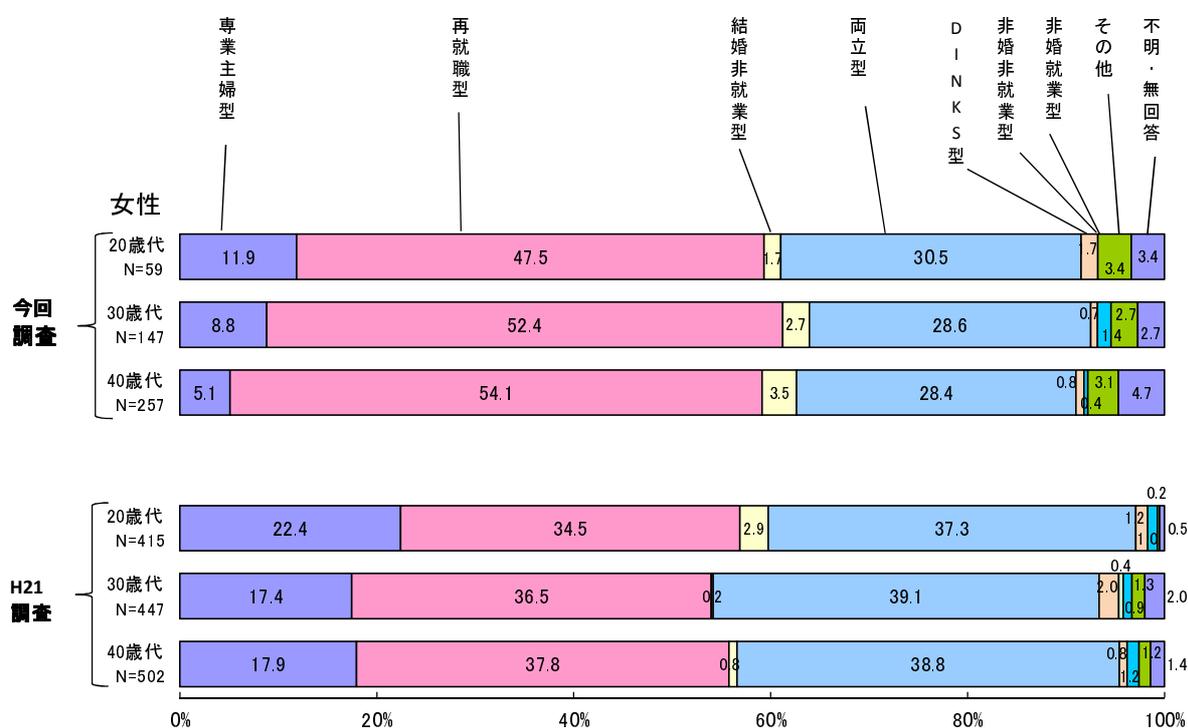
(2) 女性が考える理想の生き方

女性が、仕事を持つことと結婚や出産などのライフイベントの関わりにおいて、どのような生き方を理想と考えているかについて質問した。また、参考までに、平成21年度に20～40歳代女性を対象として県が実施した「女性の就業等意識調査」の結果との比較を行った。

◆ 出産後に退職し、子育て後に再び仕事を持つ「再就職型」を理想とする女性が増加

「平成21年度女性の就業等意識調査(奈良県実施)」では、出産後も仕事を続ける「両立型」が女性の理想の生き方の1位だったが、今回の調査では「再就職型」が1位となり、「両立型」は2位となった。

今回調査では「専業主婦型」「両立型」が減少し、「再就職型」が増加した。



※ 女性の理想の生き方については、質問項目を下記の類型により記載した。

- ①専業主婦型：結婚し子どもを持ち退職、その後仕事を持たない
- ②再就職型：結婚し子どもを持ち一旦退職、子育て後再び仕事を持つ
- ③結婚非就業型：結婚し子どもを持つが、仕事を持たない+結婚し子どもは持たず、仕事を持たない
- ④両立型：結婚し子どもを持つが、仕事を続ける
- ⑤DINKS型：結婚し子どもは持たず、仕事を続ける
- ⑥非婚非就業型：結婚せず、仕事を持たない
- ⑦非婚就業型：結婚せず、仕事を続ける

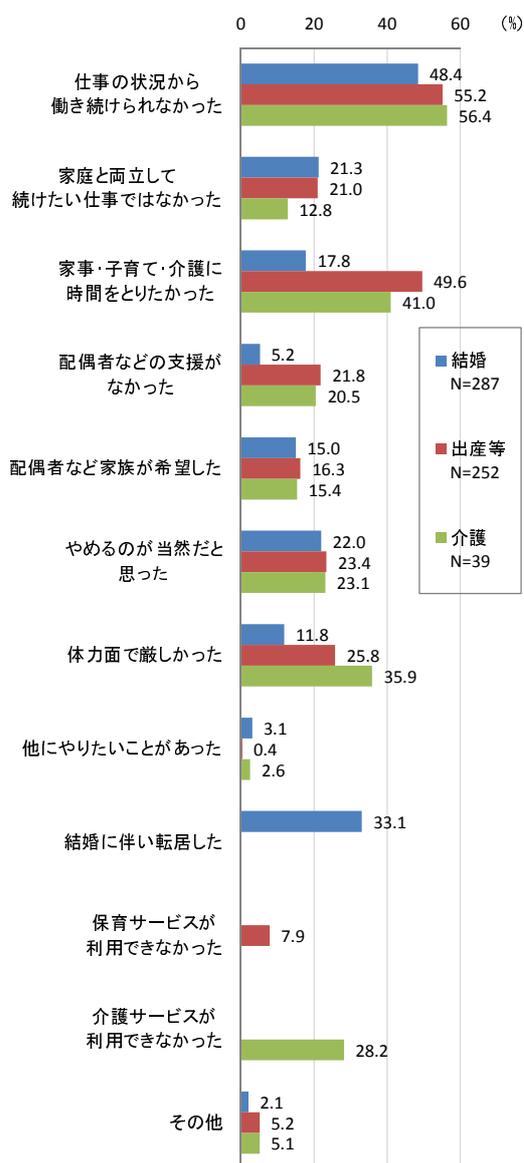
(3) 女性が仕事をやめた理由

結婚・出産・介護等の事由により、過去に仕事をやめた経験のある女性に、退職事由別にその理由を質問した。(複数回答)

◆ 「仕事上の理由」での退職が多い

「仕事の状況から働き続けられなかった」「家庭と両立して続けたい仕事ではなかった」という回答を、「仕事上の理由」で退職したと分類すると、この理由で退職した女性が最も多い。

また、出産等や介護で退職した女性は、「家事・子育て・介護に時間をとれたかった」という回答が多い。

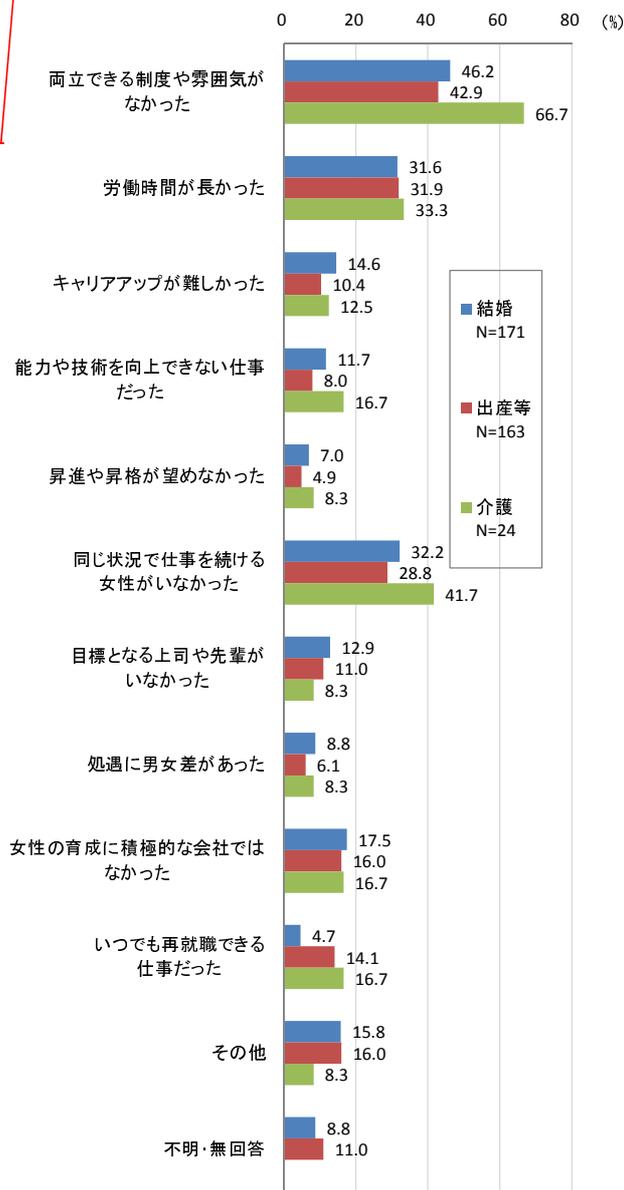


(4) 「仕事上の理由」でやめた詳細な理由

左記質問で「仕事上の理由」で退職した女性には、さらに、どのような「仕事上の理由」であったのかについて詳細に質問した。(複数回答)

◆ 1位は、職場に「両立できる制度や雰囲気」がない

「両立できる制度や雰囲気がなかった」のほか、「労働時間が長かった」「同じ状況で仕事続ける女性がいなかった」という理由で退職している女性が多い。



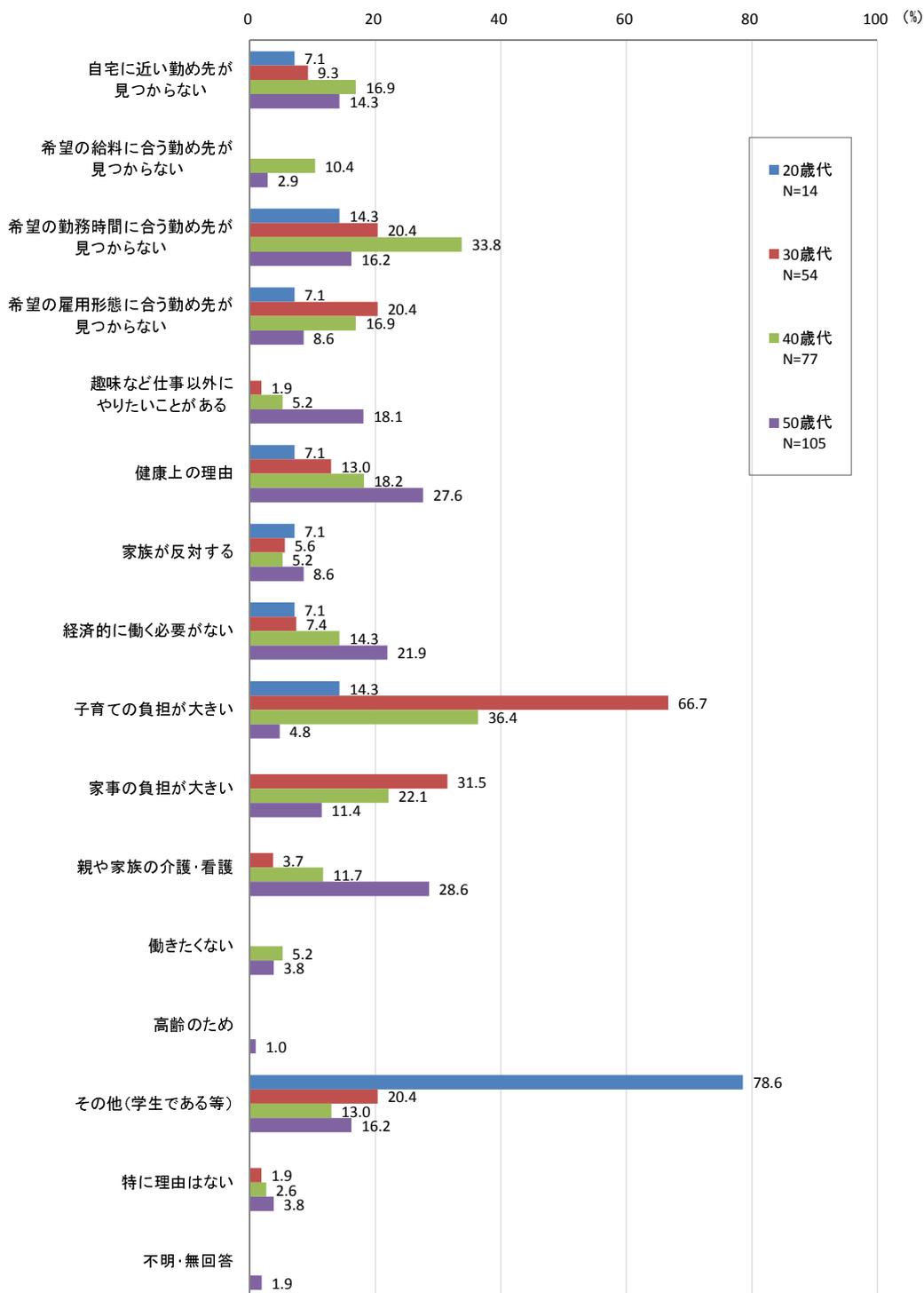
(5) 女性が現在働いていない理由

奈良県の女性就業率(56.5%・対象20~64歳)は全国最下位である。
 そこで、「現在働いていない」と回答した女性に対し、その理由を質問した。(複数回答)

◆ 30歳代女性は子育てや家事の負担が特に大きい

年代別にみると、30歳代女性では「子育ての負担が大きい」が突出して多く、次いで「家事の負担が大きい」である。一般的に、子育てが一段落し再就職準備を行うことが可能な40歳代女性でも、なお「子育ての負担が大きい」が最も多く、次いで「希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない」である。

また、年齢が上がるにつれ、健康上の理由や介護等で働けない女性、さらに「趣味など仕事以外にやりたいことがある」「経済的に働く必要がない」という女性が増える。



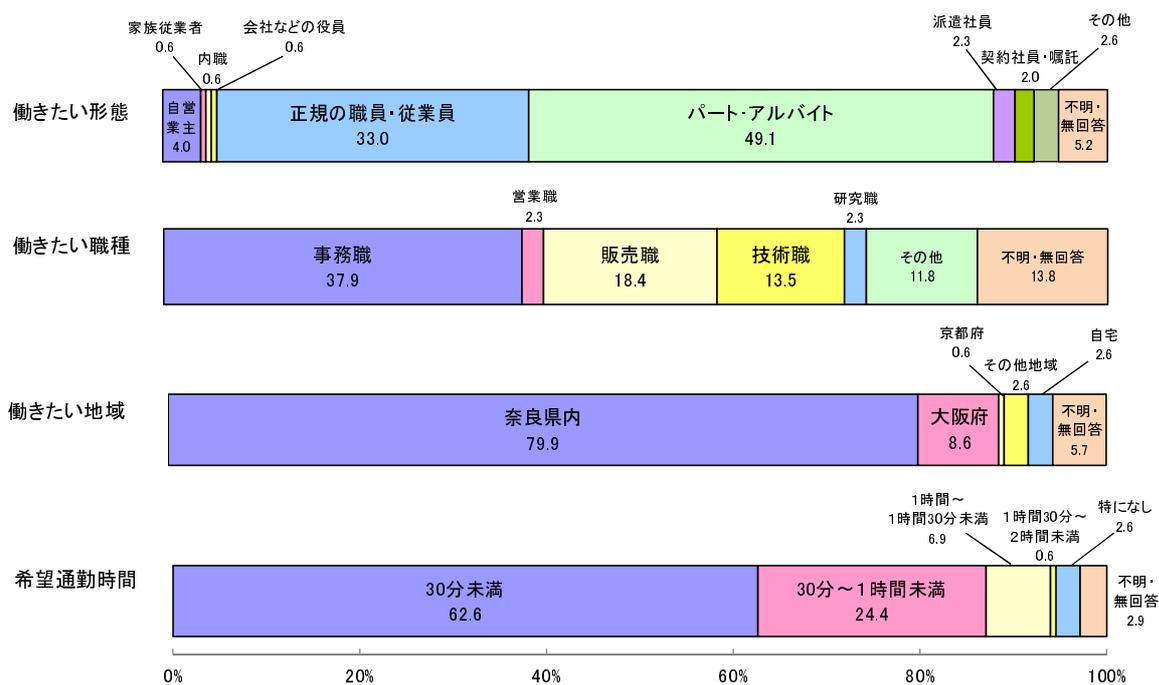
(6) 女性が働きたい仕事

前項目(5)で、各年代にわたり希望の勤務時間や雇用形態に合う勤め先が見つからないという回答があった。そこで、「現在働いているが今とは違う仕事がしたい」女性と、「現在無職だが今後仕事に就きたい」女性に、働きたい仕事について質問した。

◆ 奈良県内で職住近接の働き方を希望

働きたい形態では「パート・アルバイト」「正規の職員・従業員」の順に希望が多く、働きたい職種では、事務職が1位で、その他販売職、技術職等多様な職種を希望している。

また、奈良県内(79.9%)で通勤時間が30分未満(62.6%)という職住近接の働き方への希望が突出している。



N=348